



監査管理表記規則マニュアル

ARIS Risk & Compliance Manager

バージョン 9.7

2014 年 10 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.7 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2014 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://documentation.softwareag.com/legal/>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices and license terms, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". This document is part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).



目次

1	はじめに	1
2	本マニュアルの内容	2
2.1	目的および範囲	2
3	ARIS 表記規則	3
3.1	ユーザーとユーザー グループの作成	3
3.1.1	役割と要員の割り当て	5
3.2	監査テンプレートの生成	7
3.2.1	監査の概要	7
3.2.2	監査手順の概要	10
3.2.3	範囲の定義	12
3.3	オブジェクトと接続線の非アクティブ化	14



1 はじめに

監査テンプレートの作成を簡易化して、再利用できるようにするため、ARIS Architect (ABA) で監査テンプレートを使用してオブジェクトをモデル化できます。ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。



2 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

2.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザー文書

3 ARIS 表記規則

3.1 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。

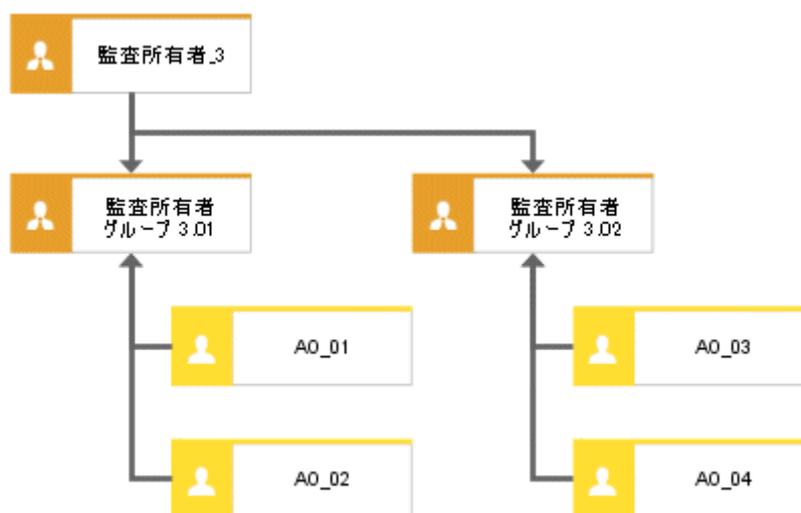


図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造 (組織図)

上位役割 [監査所有者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[監査所有者グループ 3.01] は [監査所有者_3] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり、監査所有者_3 > 役割: 監査所有者、レベル: 3 (またはオブジェクト固有) で定義されます。ユーザー グループは、上位役割 (監査所有者_3) に対して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[監査所有者グループ 3.01] ユーザー グループは、[監査所有者] の役割およびレベル「3」(オブジェクト固有の権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。また、ユーザー ID「AO_01」と「AO_02」のユーザーが作成されます。



役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.auditauditor	監査監査者	レベル 1、2、および 3
roles.auditmanager	監査担当者	レベル 1 および 2
roles.auditowner	監査所有者	レベル 3 のみ
roles.auditreviewer	監査評価者	レベル 3 のみ
roles.auditstepowner	監査手順所有者	レベル 3 のみ



3.1.1 役割と要員の割り当て

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	[役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

古いモデル作成の規則に基づいた既存のデータベースは、提供されている ARCM user migration.arx レポートを使用して移行できます。姓と名の 2 つの属性は同じ属性から派生するため、結果を確認する必要があります。

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログオン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.2 監査テンプレートの生成

3.2.1 監査の概要

マスター データの管理を簡易化するために ARIS Architect で監査テンプレートをモデル化できます。これには、[プロジェクト スケジュール] (MT_PROJECT_SCHEDULE) モデルを使用できます。

3.2.1.1 モデルのプロパティ

属性ベースのモデリングを使用するには、属性ベースのモデリングの行/列プロパティを指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択して、次のアイテムを設定します。

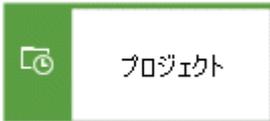
位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)

次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。

3.2.1.2 オブジェクト、関係、および属性

[プロジェクト計画] モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ 名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト	OT_FUNC_INST		監査テンプレート
役割	役割	OT_PERS_TYPE		監査所有者、監査評価者、監査 監査者 (選択した役割による)

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (プロジェクト)	実行される	役割	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。



3.2.1.2.1 オブジェクト、関係、および属性

次の割り当ては [タスク (プロジェクト)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		
開始日	AT_DATE_START	auditstartdate	○	監査の開始日。関係者全員にタスクに関する通知が送られます。
	-	auditenddate		開始日に最大合計時間を加算して計算されます。
最大時間合計	AT_MAX_TL_TIME	-	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF	-		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
監査クライアント	AT_AUDIT_CLIENT	audit_client	○	監査をリクエストする組織または要員。
エクスポート関連	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT	-		この属性は、監査テンプレートを ARCM にエクスポートするかどうかを指定します。
監査の目標	AT_AUDIT_OBJECTIVE	objectives		監査の目標の定義。
監査準備の開始日	AT_START_DATE_OF_AUDIT_PREPARATION	plannedstartdate	○	準備段階の開始日。監査が生成されます。
統制期間の開始日	AT_START_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	controlstartdate	○	監査を実施する統制期間の開始日。



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
統制期間の終了日	AT_END_DATE_OF_CONTROL_PERIOD	controlenddate	○	監査を実施する統制期間の終了日。
タイトル 1/リンク 1	AT_TITL1/AT_EXT_1	documents		
タイトル 2/リンク 2	AT_TITL2/AT_EXT_2			
タイトル 3/リンク 3	AT_TITL1/AT_EXT_1			
タイトル 4/リンク 4	AT_TITL4/AT_EXT_4			
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	documents		
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4			

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.2.2 監査手順の概要

[プロジェクト スケジュール] タイプ (MT_PROJECT_SCHEDULE) のモデルを監査テンプレートに割り当てて、監査テンプレート (タスク (プロジェクト)) の監査手順を定義できます。

3.2.2.1 モデルのプロパティ

属性ベースのモデリングを使用するには、属性ベースのモデリングの行/列プロパティを指定する必要があります。列ヘッダーを右クリックして、[プロパティ] の [書式] から [属性ベースのモデリング] を選択して、次のアイテムを設定します。

位置の属性: 開始日 (AT_DATE_START)

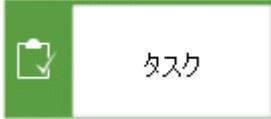
次元の属性: 最大合計時間 (AT_MAX_TL_TIME)

属性依存のシンボル: 位置と次元を [タスク] オブジェクトに許可する必要があります。

3.2.2.2 オブジェクト、関係、および属性

オブジェクトと名前 (監査手順)

[プロジェクト計画] モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	タスク	OT_FUNC_INST		監査手順テンプレート
役割	役割	OT_PERS_TYPE		監査手順所有者

接続線 (監査手順)

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
タスク (タスク)	実行される	役割	最初の列 (組織要素) に組織ユニットをモデル化すると、タスクへの非表示の接続線が自動的に生成されます。
タスク (タスク)	属する	タスク (タスク)	上位のタスクを定義します。



3.2.2.2.1 タスク (ABA) と監査手順テンプレート (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [タスク (タスク)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		
開始日	AT_DATE_START	plannedstartdate	○	監査手順の計画された開始日。
	-	plannedenddate		開始日に最大合計時間を加算して計算されます。
最大時間合計	AT_MAX_TL_TIME	-	○	
週末休み	AT_WEEKEND_OFF	-		[週末休み] オプションが選択されている場合は、期間に週末が含まれる場合に最大合計時間が 2 日延長されます。
目標処理時間	AT_DES_PROC_TIME	processingtime	○	監査手順の実行に計画された期間
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	documents		
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4			

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

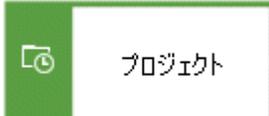
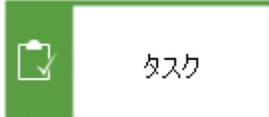


3.2.3 範囲の定義

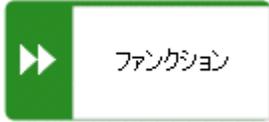
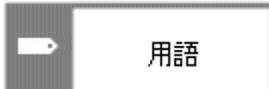
監査または監査手順の範囲を定義するには、[タスク割り当て] (MT_FUNC_ALLOC_DGM_INST) を使用できます。選択した範囲にしたがって、テスト ケース、リスク評価などの関係する要素（定義された統制期間でフィルター）が ARCM で割り当てられている監査/監査手順に表示されます。

オブジェクトと名前（範囲）

次のオブジェクトをタスク割り当て図で使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
タスク	プロジェクト/タスク	OT_FUNC_INST	 	監査/監査手順
リスク カテゴリ	リスク カテゴリ	OT_RISK_CATEGORY		リスク カテゴリ
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE		アプリケーション システム タイプ



オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
ファンクション	ファンクション	OT_FUNC		プロセス
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT		組織
用語	用語	OT_TECH_TRM		規定

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト
リスク カテゴリ	範囲内である	タスク
アプリケーション システム タイプ	範囲内である	タスク
ファンクション	範囲内である	タスク
組織ユニット	範囲内である	タスク
用語	範囲内である	タスク

各監査/監査手順には [範囲内である] タイプの接続線は 1 本のみ使用できます。



3.3 オブジェクトと接続線の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

監査手順を非アクティブにするには、上位オブジェクトへの接続線と監査手順自体を非アクティブにする必要があります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。